

平成26年度ふくい里山里海湖活動表彰 表彰団体一覧

参考

(50音順)

団体名	活動市町	表彰理由
青葉山里山整備の会	高浜町	青葉山の豊富な植物相や、樹齢300年を超える巨木が多く残る自然の魅力を生かしながら、竹の利活用をはじめとした里山整備活動や、地域住民・観光客へのPR活動に取り組んでいる。平成26年度は、青葉山周辺の巨木を紹介する巨樹・巨木マップの作成および樹名板の整備を行うなど、地域の魅力アップにつながる活動を強化している。
あわらの自然を愛する会	あわら市	地域住民に地元の自然の魅力を見つめ直してもらうことを目的に取り組む「あわらの自然再発見」作品募集企画や、地域の小学校、保育所等と連携した植樹や山野草保全などの里山保全活動、ビオトープの整備などの様々な活動に熱心に取り組み、その活動を年々着実に拡大させている。
特定非営利活動法人中池見ねっと	敦賀市	平成24年にラムサール条約湿地に登録された中池見湿地にて、地域の小中学校、高校と連携した保全活動や観察会、湿地保全に関する研究者と連携した勉強会やフォーラムの開催など、精力的な活動を行っており、平成6年以来観察例がなく絶滅が懸念されていた県域準絶滅危惧種アオヤンマが20年ぶりに確認されるなど、着実な保全活動の成果が見られる。
日本農武士ネットワーク	坂井市	高齢化による農地離れが進む坂井市竹田地区にて、耕作放棄地を借りて無農薬・無化学肥料で米やソバを生産し、平成26年度は栽培面積を約5ヘクタールに拡大させている。就農希望者を受け入れる研修や、福祉施設等と連携した農業体験活動、地域住民とともに行う田植えや稲刈りイベントなどを積極的に実施するなど、地域との連携を深め活性化につなげている。
ハスプロジェクト推進協議会	若狭町	子どもたちが地域の大人から聞き取った昔の三方五湖周辺を描く「昔の水辺の風景」絵画企画や、希少な生き物が生息するカヤ田での保全活動、三方五湖周辺の外来生物の駆除活動など、子どもから大人までが楽しくふれあいながら行う様々な活動を実施している。平成26年度には、地域住民に「食」を通じた三方五湖のめぐみを再発見してもらうことを目的とした「五湖のめぐみフォーラム」を盛大に開催し、地域を元気にする活動を更に強化している。
水辺と生きものを守る農家と市民の会	越前市	地域の小中学生への体験学習機会の提供や、地域外住民とともに周辺里地での無農薬・無化学肥料の米作りに取り組む田んぼファンクラブ活動、地域住民がコウノトリの見回りを行うコウノトリ見守り活動、農家民泊・エコツーリズム活動など、コウノトリをシンボルとした活動に積極的に取り組み、人も生きものも元気が出る地域づくりに着実な成果が見られる。
みはま YumYumPROJECT	美浜町	米STARSと名付けられた子どもたちへの年間を通じた無農薬の米作り体験プログラムや、地域の耕作放棄地を舞台に大人も参加して行うドロリンピック、大阪天神橋筋商店街での子どもたちによるお米販売など、様々な魅力あふれる体験を通じて、子どもたちへの米作りだけに留まらない様々な学習の機会を提供している。

団体名	活動市町	表彰理由
小河フレンドくらぶ	敦賀市	過疎の進む小河区の存続、発展を図るため「里興し(さとおこし)活動」と称して、魅力ある里地里山づくりに取り組む。スギ林や竹林の整備をはじめとして、耕作放棄地を活用した花ハス池やマコモ田、山菜畑の創出などの新たな魅力づくりを進め、地域を元気にする活動に熱心に取り組んでいる。整備した里山における体験活動受け入れにも取り組み、平成27年度には、市街部の幼稚園を春秋の2回受け入れ、子供たちへの里山の暮らしや自然体験の機会を提供するなど、地区外の住民との交流機会も着実に拡大している。
河和田自然に親しむ会	鯖江市	豊かな自然が残る地域の里山で、「この自然を未来に残したいね」をスローガンに、平成4年の結成後24年にわたり地域の宝であるオシドリやゲンジボタルなどの希少な生きものを守る活動等に取り組んでいる。子供たちが楽しみながら里山の自然を学ぶことができる紙芝居や映像など工夫をこらした教材を作成し、平成27年度には年間5回の自然観察・体験イベントを開催するなど、精力的な活動を実施。オシドリ等の保全活動が全国放送で特集されるなど、保全活動の成果が地域の魅力づくりにも着実につながっている。
コウノトリの郷づくり推進会	小浜市	コウノトリが国内で最後まで自然で営巣しヒナを育てた歴史を踏まえ、平成23年6月に設立されて以来、コウノトリをシンボルとして「住みよい自然豊かな環境づくり」の活動を展開。地域の小学生への体験学習機会の提供や、地域住民とともに「ビオトープの整備」や「光のたんぼアート」などをはじめとする様々な活動に熱心に取り組んでいる。平成27年には2月と4月に地区内のたんぼへのコウノトリの飛来が確認されるなど、取り組みを進めてきた成果が着実に実を結んでいる。
中番環境を守る会	あわら市	地区の神社林である「春日の森」の保全活動を平成23年から継続的に実施し、人の手が入らず荒廃していた森を自然に触れ親しむことができる里山に再生。平成27年度は苗木80本の植樹や木製チップを敷き詰めた散策道の整備など、精力的な活動に取り組んでいる。子供たちを対象とした田植え、稲刈り体験や生きもの調査なども継続的に実施し、地域の里地里山を守り育てる活動を着実に拡大させている。
菜の花公夢典ひがしあご	福井市	地域の里山である「下市山」の保全整備に、平成13年から地域ぐるみで継続的に取り組む。散策道整備では、平成27年度は延べ11回の活動に約100名が参加して作業を行うなど、精力的な取り組みにより年々散策コースの充実・拡大が図られている。カタクリの群生地として知られる下市山には毎年地域の枠を超えて多くの人を訪れており、里山保全を通じた魅力ある地域づくりに着実な成果が見られる。
わくわく体験学習推進隊	勝山市	教員のOB等を中心に平成16年に組織され、地域の自然を体験しその大切さを伝えるため、年間を通じた自然観察や体験活動を各地で実施。自然環境と地域住民の今と昔の暮らしの違いなど、里山の暮らしや歴史を幅広い年代の方に伝え、地域の里山を大切に思う人材の育成に取り組んでいる。平成27年度は、年間13回の自然観察・体験イベントを開催しており、精力的な活動をさらに強化している。

表彰者名	活動市町	表彰理由
上根来百里会	小浜市	限界集落である上根来地区の再生を目指し、鯖街道や集落の整備、倒木除去等の森林保全活動に継続的に取り組み、雪を活用した雪室の整備や、里山の生活を後世へ継承する「しがら組」の体験や炭焼き講習会を実施するほか、平成28年度には鯖街道において御休処「助太郎」の運営を開始するなど、県内外へのPRにも尽力し、その活動を着実に拡大させている。
坂口地区うらの町づくり振興会 環境部会	越前市	馬借街道や矢良巣岳の整備等の自然環境の保全再生活動に取り組み、平成17年度から継続している坂口小学校との協働事業「コウノトリが舞い降りる田んぼづくり」では、田植え・草刈り・稲刈り・餅つきなど年間を通しての環境学習を実施している。平成28年度は新たにハッピー山にてアカマツ植樹を行い、自然環境や農村における食文化を次世代に継承している。
敦賀市立松原小学校	敦賀市	「地域に根ざした学校づくり」の目標のもと、児童を「うみのこ」と呼称し、敦賀市内の自然を活用した環境教育に力を注ぐ。平成26年度からは気比の松原における体験教育活動を実施し、清掃や落葉かきを通して、児童のふるさとの自然環境への意識を育成するとともに、気比の松原の保全に貢献している。
特定非営利活動法人 自然体験共学センター	福井市	法人設立以降、旧美山町上味見地区において自然体験活動を継続的に実施。夏休みや冬休み期間を中心に、県内外から多数の小学生を受け入れ、川遊びやネイチャークラフト、テント泊を経験できる機会を提供している。また、廃校となった小学校を活動拠点としており、地域活性化の一助としても貢献している。
特定非営利活動法人 自然と共に生きる会サンガ	美浜町	団体創立以降、自然遊びや楽しみの中から自ら感じ学びとる「自然学習」をコンセプトに、子どもから大人まで対象に体験イベントを開催している。また、里山における鹿等による被害を伝え、山林保全を図るため有害鳥獣駆除を実施するとともに、ジビエ料理を提供するなど捕獲後の利活用にも取り組んでいる。
ノーム自然環境教育事務所	大野市	活動拠点「ハックルベリーの森」では幼稚園や地域のグループの森遊びや野外料理、森林整備等の自然体験活動を積極的に受け入れ、里地、里山、里川の資源を活かした自然や文化、農、食等の多岐にわたる体験活動を企画し、年々その取り組みを広げている。平成28年度には、学びの森ネットワーク登録団体を代表して安全管理講習会を開催し、他団体の模範となった。

平成29年度ふくい里山里海湖活動表彰 表彰者一覧

参考

(50音順)

表彰者名	活動市町	表彰理由
安居の里を守る会	福井市	未更毛川でゲンジボタルの保全活動を行い、その個体数は年々増加し、長年の成果が着実に見られている。また、ビオトープを作り、小学生が古代米の栽培やミズアオイの保護・育成を通して自然に触れる機会を設けているほか、平成29年度には、ホテル観察会に郷土料理の提供や地域の文化と歴史を集めた公民館資料室の見学を組み合わせ、ホテルを通じた地区のPR活動をさらに発展させる等地域ぐるみで自然資源を守り伝える活動に取り組んでいる。
田村のゆめづくり協議会	小浜市	「人と人とがつながり合うむら」を目指し、里地里山を活用した様々な活動を展開している。平成25年度には、地域を流れる田村川の上流の滝「亀が淵」を水源として整備し、休耕田を活用した地酒を完成させた。また、約300年続く伝統行事である「松上げ」を次世代に継承するため、子ども用の松上げの新設や行事を演出する行燈の製作に取り組み、平成29年度には行事を再開した集落が見られる等住民の機運の向上に寄与している。
特定非営利活動法人 森林楽校・森んこ	おおい町	茅葺きの古民家を拠点に「里山・山村の暮らし」をテーマに、川遊びや雪遊びなど季節の自然体験活動や竹林整備等の里山復興活動、囲い作りによる有害鳥獣対策、滝の清掃活動等の里山保全活動等多様な活動に継続的に取り組み、町内外の幅広い世代に里山や森林の大切さを伝えている。さらに平成29年度からは、古民家周辺の無住集落の再生を目指して、大学のゼミや町と連携した地域活性化事業の研究を新たに展開している。
若狭町立三方小学校	若狭町	三方五湖へつながる川の上流で米作りを行う中で、平成23年度からコイやフナを田んぼで卵から育て稚魚を湖へ放流する取り組みを開始し、湖と自分たちの生活の深い結びつきを学ぶとともに、三方五湖の湖岸清掃にも積極的に参加し、児童にふるさとの湖を守ろうという意識を醸成している。また、平成26年度からは、水月湖年縞や田んぼの水草観察、ワカメの芽つけ体験等地域の里山里海湖資源を活かした授業を取り入れ、環境教育に一層注力している。
福井県立若狭東高等学校 地域創造科地域開発コース	小浜市 若狭町	地域に自生するアブラギリの活用等身近な里山に関する課題研究を継続して実施している。また、小浜市上根来地区と若狭町熊川地区において自然素材を使った「しがら組み」を施工し、間伐材の有効活用と限界集落の景観保全を考察したり、地域の子もたちを対象に里山の素材を活用した工作教室を開催し、里山の魅力を伝え環境保全に対する意識を喚起している。さらに、これらの学習成果を生徒が主体的に地域へ発信している。

## 平成30年度ふくい里山里海湖活動表彰 表彰者一覧

(50音順)

表彰者名	主な活動市町	表彰理由
くちなた 口名田むらづくり 推進委員会	小浜市	特定外来生物であるオオキンケイギクの駆除や注意喚起を行っている。平成27年度から区役員を中心に地区内でオオキンケイギクの生息域の調査を開始。平成28年には調査を基にした生息域マップを作成し、平成29年度から駆除を開始。平成30年度は、駆除活動を区役員から地域住民に広げ、パトロールという形で行っている。発見した場合は、その都度、根から引き抜き、焼却処分をしている。処分の方法については、市の広報誌を利用して地域住民に周知し、地域全体で駆除活動を行っている。
里山銀杏峰を愛する会	大野市	約20年前から登山道がなかった大野市の銀杏峰の整備を開始し、近年では、関西中京方面を中心に多くの来山者で賑わっている。約17kmの登山道が完成した後も、刈り払いや維持管理作業を続けた結果、それまで見られなかった県絶滅危惧Ⅱ類であるオオヤマレンゲも数か所で生息するようになり、現在は、その保護活動も行っている。毎年、山開きの後、里山遊歩道の探索や夏休み自由研究など、子どもたちや市民を対象とした森林環境教育も実施している。
福井市旭公民館 福井市旭青少年育成会	福井市	30年の長期にわたり地区を流れる荒川について、水質調査および生態調査を実施している。源流の農村部である永平寺町から都市部である足羽川合流地点までを調査対象として、地域と小学生が連携し、身近な川に対する関心を高め、自然に親しみ慈しむ心を育成している。荒川の環境をよくするためには、上流と下流の流域の人々が思いを同じにすることが不可欠との考えから、荒川流域の地区の公民館、自治会など関係者に呼び掛け、旭公民館が主催して「荒川サミット」を開催している。
むろこ女性の会	勝山市	村岡(むろこ)山周辺で、ナツアカネ、アキアカネといった赤トンボの生態を調査している。村岡山で赤トンボや様々な昆虫が観察でき、かつ、里山の原風景が楽しめる場所を「キラキラスポット」として設定するとともに、平成29年度に作成した赤トンボの一生をまとめたDVDを活用した地域の教育活動のほか、里山周辺にある勝山のジオサイトを巡る「ジオツアー」の開催等、地域住民の枠を越えて、里山やジオサイトの魅力を発信している。
一般社団法人 若狭路活性化研究所	若狭町	小学生を対象とした里山里海湖の自然を活用した体験教育活動を実施している。キャンプ活動を中心に、シーカヤック、シュノーケリング、焼き芋など、季節に応じたプログラムを提供し、活動を通じて、子どもたちに自然の偉大さ、楽しさ、喜び、危険などを体感させ、自然への愛着心・誇りを醸成している。また、平成30年度から開始した人材育成事業「若狭ソーシャルビジネスカレッジ」を通して、これからの一人ひとりの幸せ、地域や社会全体の幸せについてともに考え、実現に近づけられる若手の人材育成にも力を入れている。

表彰者名	主な活動場所	表彰理由
美しい鳥浜を創る会 (美鳥会)	若狭町	平成 19 年の団体設立以降、農地等の整備や湖の清掃活動とともに、水田魚道が設置された水田でコイ・フナの稚魚を育成し、湖へ放流する取り組みを継続してきた。今年度は、日本農業遺産認定の一つとなった伝統漁法(たたき網漁)と関連して、コイの育成に力を入れてきた。毎年、育成田で地元小学生を対象とした生きもの観察会を開催し、地域の自然を楽しみながら学び、環境保全への関心を高める機会づくりを行っている。
大野親岳会	大野市	昭和 29 年から、長年にわたって市内を中心とした登山道の保全活動を行っている。市内の山を中心に、初心者向けの登山イベントを年間 6 回開催しており、登山客誘客にも貢献している。会員は遭難防止やレスキューの訓練に参加し、登山での事故防止スキルの向上に努めている。かつては生活の一部であった飯降山を多くの方々に身近に感じてもらうために、明治時代まで盛んに行われていたたいまつ登山(参拝登山)を 1992 年に復活させ、高校生等への行事の継承も行っている。
あわら市 北潟小学校	あわら市	長年、地域の自然・もの・人を活かした体験活動に取り組んでおり、北潟湖自然再生協議会や地元の環境団体、農家、漁業組合等の協力のもと、赤尾湿地自然観察会や希少生物観察会、フナの稚魚放流、国有林の枝打ち体験など、幅広く体験活動を行っている。湖畔の環境美化活動を長年にわたり継続しており、全児童による北潟湖クリーン大作戦では、陸上とカヌーを使った湖上のゴミ回収を行っている。
勝山市立 平泉寺小学校	勝山市	長年にわたり、全児童がジオパーク学習の一環として、池ヶ原湿原の生き物観察や水質調査、外来植物の駆除およびヨシ刈りなどの保全活動を行っている。調査したことは生きもの図鑑やジオラマ展示用説明板づくりにつなげている。今年度は、刈り取ったヨシを使ったストローを製作し、地元の施設に贈呈、活用してもらうことで、プラスチック問題への気運を高めた。これら池ヶ原湿原での活動について、修学旅行やジオパーク再認定審査、発表会等の場で発信している。
宮川まちづくり協議会	小浜市	伝統的な害虫駆除および供養である「虫送り」を実施し、伝統的な里山の暮らしを伝承している。転作田を利用してヒマワリを植え付け、里山の景観保持とともに、有機肥料として特別栽培米の栽培に活用している。今年度は、地域を盛り上げるために「虫送り」と「ひまわり祭り」を同時に開催した。また、伝統行事である「虫送り」の継承を目指して、地元の若者たちで太鼓衆(華鼓宮)を結成、世代間の交流に繋げている。
福井県立若狭高等学校 International Microplastics Youth Conference 2019 実行委員会	小浜市 (若狭湾)	平成 28 年度から、若狭湾を対象とした「マイクロプラスチックに関する研究」を継続して実施し、里海湖の保全につながる基礎研究を行っている。今年度は、国際会議やフォーラムを生徒主体の実行委員会で開催し、アメリカ、台湾などの海外や県内外の高校生と環境問題について議論を深めた。おおい町の里山を舞台に、ワークショップや体験活動を実施し、山川海のつながりと人々の生活についても議論を深めた。

表彰者名	主な活動市町	表彰理由
<p>えちぜん 越前おおのエコフィールド 管理・運営協議会 (代表 林 俊介)</p>	<p>大野市</p>	<p>大野市上庄地区にある「おおのエコフィールド」において、平成21年から10年以上、市内の広大な森林を守り育てるため、緑化活動をはじめとした様々な活動を行っている。</p> <p>「どんぐりの里親事業」では、毎年、大野市内の小学2年生を対象に森林に関する授業を実施するとともに、どんぐりを渡し苗木に育ててもらい、楽しみながら環境について学べるようにしている。今年度は、学校が春先に休校となったため、協議会会員や教員が協力し途中まで苗木を育て、学校再開後は子ども達に引き継いだ。これらの苗木はエコフィールド内に移し、3、4年育てた後、森づくり団体が取り組む植樹活動用に配布している。</p> <p>また、毎年秋頃に、森づくりイベントとして協議会会員の33の企業や団体が参加し、どんぐりの苗木の越冬作業や市内の森での植樹活動を行っている。今年度は感染症拡大により活動が制限される中、移動方法の工夫や参加人数の制限など、感染症対策を十分に行うことで、例年どおりの活動を実施した。</p> <p>これら植樹活動により、森の生き物の食料となる木を増やしクマの出没被害の軽減につなげることも目標としている。</p>
<p>さかぐち 坂口エコメイト (代表 野村 みゆき)</p>	<p>越前市</p>	<p>平成13年に実施した県の事業に参加したことをきっかけに、坂口地区の小中学生を中心に活動を開始した。以後、坂口地区に生息しているアベサンショウウオやコウノトリなど、希少な生き物が生息する環境下で、無農薬、外来種など、様々な見方から生き物調査を20年間継続して行い、これらをまとめ、県内外の発表会で発表している。「こどもエコクラブフェスティバル」や「こどもホタレンジャー」など全国規模での発表も行い、坂口地区の自然環境について情報発信している。平成28年からは、外来種の害について学習したメンバー自らの発案による活動として、アメリカザリガニの駆除活動を追加。</p> <p>今年は、メンバーの活動時間に制約がある中、観察場所の変更や時間を短縮するなどの工夫により、外来種駆除活動や観察会を実施した。観察会が出来ない季節についても、過去の観察記録を活用し、子供の想像力を働かせながら季節毎の生き物の変化について学べるよう工夫した。</p> <p>卒業生メンバーも地域のイベントを手伝うなど、坂口エコメイトの活動に関与しており、組織の存在自体が故郷を愛する人間形成に寄与しており、世代を超えて自然環境教育に取り組んでいる。</p>
<p>(株)エイ・ダブリュ工業・若狭(若狭町) アイシン・エイ・ダブリュ工業(株)(越前市)</p>	<p>若狭町</p>	<p>若狭町協袋自治会が実施している膳部山登山道の整備作業にボランティアとして平成30年度から参加協力した。</p> <p>主な活動として、急斜面への安全ロープ、簡易ステップの設置、景観支障木、倒木の伐採除去、案内標識や膳部山の紹介看板の取り付け等を行った。</p> <p>参加人数 平成30年度 作業12名、事前視察3名 令和元年度 作業11名 令和2年度 作業5名、当日視察1名</p>
<p>日本生命保険相互会社 福井支社(福井市)</p>	<p>越前市</p>	<p>越前市の帆山町里山保全の会が実施している村国山南側斜面の整備作業に令和元年度から参加協力している。</p> <p>主な活動として、急斜面への簡易ステップの設置、倒木の伐採除去、案内標識の取り付けのほか、材料をニッセイ財団が提供し地域の子供たちを交えた樹名板取り付け作業に協力した。</p> <p>参加人数 令和元年度 整備作業5名、樹名板取付1名 令和2年度 整備作業5名</p>

令和3年度 ふくい里山里海湖活動表彰 表彰者一覧

参考

(50音順)

表彰者名	主な活動市町	表彰理由
敦賀海洋少年団	敦賀市	令和3年度から市内小学生を対象にカヌー体験教室を実施し、体験教育活動にも力を入れ、里海に親しんでもらう機会を増やした。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、例年実施している海岸清掃が中止になったものの、他の場所で行われた海浜清掃活動を探して参加するなど、活動を強化した。卒団員が引き続き指導者となり、サステナブルに団を支えている。
若狭高浜ブループロジェクト	高浜町	ムラサキウニの駆除活動や母藻の設置による藻場の保全・再生活動により、様々な海の生き物にとってきれいな海を守っている。ムラサキウニを駆除するのみでなく、活動分野が異なる団体にも働きかけ、協力を得ながらウニランプの商品化を図るなど、先駆的・独創的な活動により、地域の学校の環境教育にも貢献している。
若狭町立気山小学校	若狭町	研究所が運営する福井ふるさと学びの森に毎年校外学習で参加するなど、学校周辺の自然環境を活かし、地域への愛着や将来においてもふるさとで活躍できる力を育てる視点での取り組みがなされている。20年以上続くカヤ田での生き物調査では、外部の環境保全団体や親世代も参加しながら環境学習が行われ、地域の自然環境のイメージを、世代を超えて共有する大変先駆的な活動が行われている。



表彰者名	主な活動市町	活動内容・表彰理由
<p>一般社団法人 竹田文化共栄会 (代表理事 大川 貞幸)</p>	<p>坂井市</p>	<p>里山整備が主な活動だったが、近年は行政の指定管理者として、宿泊施設やキャンプ場の経営など、多岐にわたる活動により地域住民を雇用し、里山地域の活性化に寄与している。</p> <p>全国から大学生を受け入れ、地域の課題解決を図る活動や令和4年度からは、子供たちが森の仕事を手伝うと地域のお店で実際に使用することが出来る地域通貨がもらえる、森のお仕事体験事業を実施するなど、里山里海湖に関し、先駆的で独創的な活動を行っている。</p> <p>里山の保全活動を経営的手法により、地元住民への収益還元などを行うとともに、県内外の交流人口を増やすことや森のお仕事体験などの先駆的な活動により、更なる発展も見込まれる。</p>
<p>矢環境緑化実行委員会 (代表 宮本 敬一)</p>	<p>大野市</p>	<p>桜の植樹から始められた整備で、その後カタクリの群生地を発見し、現在では、約3ヘクタールを矢ばなの里として整備した。</p> <p>毎年3月20日から開催される「かたくりまつり」は県外から観光客が多数訪れるようになった。矢ばなの里のカタクリは、山の斜面に自生し群生しているため、この群生地を整備することは、里山の保全・整備に繋がっている。</p> <p>令和4年度からは、矢ばなの里を蝶の生息地としたいとアサギマダラが好むフジバカマの植栽を始めた。今後は、「矢」という地名を強みに地区全体を盛り上げようとしている。地元住民の総意により整備を行い、里山を保全しながら、観光資源としたことで、地域で一体となり、今後とも継続した保全活動が見込まれる。</p>
<p>一般社団法人 劔岳文化共栄会 (代表理事 城戸 更彌)</p>	<p>あわら市</p>	<p>里山整備を中心に様々な活動を長年にわたって行っている。</p> <p>地元の小学校が実施する登山体験などへの支援を通じ、里山の保全や環境教育にも取り組んでいる。</p> <p>近年は、里山サクラ満開事業での植樹活動や、令和4年度からは、よみがえる清流プロジェクトにてイワナやヤマメの稚魚を放流するなど、保全活動にも力を入れている。また、立木の伐採やチェーンソーアートの見学会も実施。いずれも、地元の小学生も巻き込んだ活動で、環境教育をしながら継続的に自然保護や自然再生に取り組んでいる。</p> <p>地元で行われる祭事にも中心となって活動し、地域振興にも尽力している。</p>